

森づくり



NPO法人ひょうご森の倶楽部会長 **福田 正**

私と水との出会いは実に早い。当時、神戸御影の我が家は裏庭の井戸水が生活水でかの有名な宮水であり、真夏生まれの1貫を越える大きな赤ちゃんは生まれてすぐには泣かず、この宮水を噴きかけられびっくりして泣き声を上げ産湯代わりに水が使われたそうである。

終戦後は阪急六甲に移り幼い時から両親に連れられ、まだ昭和13年の洪水痕が残る六甲山や、脇の浜海岸、神戸製鋼所の埋め立て中のケーソンへ釣にと、海・山によく行ったものだ。小学校時に舞子へ移り、まさに「ふるさと」の童謡の舞台そのもので近くの川は、生活水として近所の人々が米研ぎや食品洗いから洗濯等を行っていた、ここは絶好の遊び場で小魚捕りに夢中になり河畔林には“かわせみ”の美しい姿が沢山見え、この川には飲料用水の取水口もあった。

この河口では石積みの大きな穴を見つけては、竹ヒゴの先に釣り針を付け大きなミミズでウナギやナマズ・ドンコをよく捕ったものだ。

河口の海では魚種も多く、夏は一日中素潜りで貝や魚を捕り焚き火で焼いて食べたり、自分の背丈になる位、魚や蛸をぶら下げて自慢げに持ち帰ったり・。この頃の水泳は明石港から垂水の海神社の大鳥居までの遠泳を楽しんだりした。言うまでもなく海の透明度は今では想像もつかない程よく、本当に竜宮城があるかと思える環境であったことが懐かしい思い出である。川遊びにふけた川は現在三面コンクリートで見る影もない！

幼いころから自然の中で過す事の楽しさが身に付き、学生時代からは本格的な登山で毎週末には六甲山で沢登を楽しみ、休みが続く時期には北アルプスや南アルプスへ、そして黒部の源流から下の廊下走破は思い出深い厳しい沢くだりでもあった。

冬山では雪を溶かしての水作りは苦勞しての水に有難味を実感。このころはどこの谷川でも自然水を

飲むことが出来たのに…。

一方、釣に関しては全日本サーフキャスティング連盟発足と同時に加入し頻繁に出かけ、このフィールドの清掃活動にも数多く参加し海の環境保全にも取り組んだ。しかしながら20年程前から釣果や釣れる魚種の変化に「海は陸(おか)が鏡」を教えられ、この環境悪化の原因である陸(高度経済成長時の乱開発、海岸の埋め立て)の森林整備保全活動に取り組んできた。



全日本サーフキャスティング連盟 兵庫協会の植樹

森林は“地球上の生き物すべての財産”これを守る為に森林ボランティア活動に入った。

ひょうご森の倶楽部は兵庫県下に20か所の活動地を持ち、すでに終了した森づくり活動地を含めると40か所を超え、多様な森づくり活動を展開してきた。

その中でも私がリーダーとして担当した川西市黒川・猪名川流域地区(一庫ダム水源地)は、茶道との結びつきにより、現在も維持・管理されたクヌギ林が残されてきたが、これを守れる人手がなくなっており、この日本一と評価の高い里山・伝統文化継承支援に取り組んできた。

この地域は平安時代より炭を焼いた記録が残され、古文書だけでなく、『毛吹草』『和漢三才図会』などの古い書物にも記録され、里山林に関して多くの古

文書や古書籍に残され、先人が深くかかわり守られてきたことが想像できる。ここで生産される一庫炭（池田炭：菊炭＝木炭の断面が菊花状）は、室町時代より茶道で使用される道具炭として最高級品と扱われ、古くは足利義政、千利休や豊臣秀吉などが賞用したと記録もあり今に至っている。

このクヌギ林は台場クヌギ仕立てで残され、落葉広葉樹林の景観はもとより「水源の森」としての役割も果たしてくれている。



台場クヌギ林の下刈

菊炭の断面

このような森づくり活動・里山の維持管理活動には多くの人手が必要なことから釣仲間にも『森は海の恋人』を呼掛け、川西市黒川に於いて“茶道文化を支える森づくり”と共に“釣り人による水源の森づくり”として「クヌギ」の植林活動に取り組み、既に5年が経過した。

また、J F 兵庫漁連の海に係わる皆さんとの森づくり活動も7年に及ぶ。

私達は兵庫県下に多くの活動地を持ち、多様な森づくりを展開しているが、県の政策「県民総参加の森づくり」推進の為、各種研修講座の企画・運営、自前でフォーラムやシンポジウムの開催などで仲間作りにも力を入れている。



会員手作りの里山フォーラム

近年は企業のCSR事業の一環として「企業の森づくり」が盛んになり、企画段階から協力し既に5年になろうとする企業とは、宍粟市波賀町の赤西溪谷で「水源の森づくり」が定着してきた。



赤西溪谷「水源の森」づくり、仮橋架橋

この様に、振返って見れば私のすぐそばには常に水との深い縁で結び付いている様に思われてならない。

この全ての生き物の財産である大切な森林を人間が破壊し、人間の勝手な欲望が今の状況を作り出していることから、森林の荒廃は明らかに地球温暖化、生物多様性の面から見ても、人間が手を差し伸べ回復に努力しなければならない。

森林の持つ役割・大切さを、より多くの人々に伝え、その理解者を増やし行動できる環境を整えていく必要があり、現状ではそのような仲間を広げる人材育成、啓発活動にも力を入れて活動している。



人工林での動力機研修

こんな地道な活動から当法人は昨年4月27日「第6回みどりの式典」天皇・皇后両陛下ご臨席のなか、H24年度『緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞』受賞の栄を賜り、両陛下から直々に『励まし』のお言葉を頂戴し、一層の責任の重さを実感してきた。

より多くの仲間が森づくり活動に参加してくれることを願っている。